

1. はじめに～昨日の2つのニュースから～

① 「なでしこジャパン」が世界一達成

- ・女子、小柄、若手、恐れない、ひたむきさ、語学力といったキーワード
- ・10歳から20歳にかけての育成プログラム（例：トレン、スーパー女子プロジェクト）
- ・質の高い「個」を集め、よい環境・よい指導者をつけて「世界」を目指す。
- ・個を光らせ（直観、創造性、アイデア）、チームで戦う（役割分担、協力、責任）。
- ・日本が世界に与えたメッセージ



（ギリシアの新聞より）

② 「文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議」

「むら」の幸せってなんかねえ？～阿武町から「むら」を考え直す公開セミナー～

今、日本だけでなくアジア全体で「むら」の存続が危ぶまれています。セミナーでは、高知県大豊町の怒田（ぬた）集落の存亡をかけた取り組みについて学ぶとともに、ラオス、ブータン、ミャンマーの農業・農村の実態を把握したうえで、阿武町のむらづくりについて意見交換を行います。「むら」で豊かに生きることはどういうことなのか、本当の幸せとは何かをみんなで考えてみませんか？

みなさまのご参加をお待ちしています

2011年8月1日 14:00～17:00頃

場所：阿武町農村センター（阿武町福田）

<プログラム> 司会進行 辰己佳寿子（山口大学）

<問い合わせ先> 阿武町役場 経済課 電話：08388-2-3114

<共催> 京大生存基盤科学研究ユニット、京都大学東南アジア研究所、

高知大学自然科学系「中山間プロジェクト」、阿武地域グリーンツーリズム推進協議会

<後援> 阿武町、山口大学エクステンションセンター

・第1のニュースに重ねて

- 困難な立地条件をもつ阿武町、JICAの研修員受け入れ、ブランドづくりへの挑戦
- 総合大学としての山口大学の力：知の力とネットワークが投入されると…

・1960年代の国際的な「開発」への流れ：外へ → 外へ・ウチへ、win-winの関係

- 問いは「足元」に向けられ始めた：「私たち自身の生活と未来をどうするか？」
- 大学の「知」は地域社会に具体的に何をもたらすことができるのか？
- 大学の国際化・知の共有は、学内外の「個」を光らせ、地域社会によりよい環境をもたらし、よりよい指導者たちを集め、チームで働く機会を創出する役割を果たす。

## 2. 山口県立大学における国際化や国際交流活動の位置づけ、国際活動を実施する上での課題

### ① 山口県立大学の国際化と国際交流活動の位置づけについて

- ・「山口県立大学国際化方針」：交流学生・教員の拡大、各専門分野での教育研究目標設定、行動計画
- ・「国際化」は4つの校是の一つ、次期中期計画たたき台目標「すべての学生が…」
- ・国際化推進室を中心に全学で国際交流プログラムをフル活用
- ・学生交流・教員交流の具体化、姉妹大学で授業（単位化）、英語で開講する科目（学部で11科目）
- ・国際共同研究例（日中韓米の百歳研究、持続可能なライフスタイル研究）
- ・多彩な国際交流自主活動（韓国研究会、日中交流勉強会、Kids-English、マルチカナルスピコン）

### ② 地域のリソースを活かした（頼った）国際活動例と課題

- ・個人のネットワーク次第（例：日韓6大学フォーラム、山口国際交流芸術祭）
- ・「take & take」で「give」が少ない（例：NGOネットワーク山口のスタディーツアー）
- ・地域が先生、ご迷惑もかけている（例：CIEE国際キャンプ：小郡町・阿武町・周南市）
- ・「山口市との包括協定」の活用が不十分（例：徳地の達人塾、石風呂ツーリズム）
- ・芸術村、YCAM、国際交流協会、国際交流団体との連携薄い（例：国際理解教材開発、芸術家招聘）
- ・留学生に依存（例：地域で国際理解教室、地域交流）
- ・社会福祉、看護栄養分野こそ国際化・グローバル化により積極的に働きかけを

山口県の「新・やまぐち国際化推進ビジョン」（平成15年）の次は？

県内の国際化の課題（外国人散在都市の課題、海外県人会ネットワークの活用等）の共有・連携は？

本学は地域に求められるような「知・ノウハウ」をもっているのか？

## 3. 本学なりに、「知の国際化・知の共有・国際貢献」に対してできること

### ① 学生の国際化：ウチ向き志向といわれる若者にソトの体験を

地域の良さを海外に伝える。

### ② 教職員の国際化：学部の垣根を超え、大学の垣根を超える

- ・小さいから学際的なチームを組む、小さいから話がまとまる
- ・LOL(Learn on Location), TLC(Themed Learning Community), IL(Integrative Learning), ICT (Information Communication Technology), LMS(Learning Management System), SMS

### ③ 大学の国際化と地域貢献：大きな課題

- ・「リソース」「知の拠点」の意味：「本当に必要なことは地元の人知っている」  
地域を大学院でバージョンアップ、学部生・大学もバージョンアップ
- ・何のために勉強（海外研修・留学）をするのか：「自分、地域、国、世界のため」  
人的交流が「知」の共有を生む
- ・コーディネーター、コーディネート機能：指導者をどう支えるか
- ・夜間・土日の活動：地域の課題に応えるということは「泥沼」への一歩という覚悟が必要

## タイ(モン族)スタディーツアー シャンティ山口の活動現場



- ・行政区外の村、エコトイレ(環境省助成金)
- ・バイオ燃料のためのトウモロコシ栽培で疲弊する村
- ・村人や子どもたちへの農薬の影響は？
- ・教育支援



- ・電気と水道のない生活
- ・雨が降ると家に帰れない
- ・ホームステイで畑や家の仕事の手伝い
- ・「勉強して良い仕事についてほしい」という声

## ベトナムへのスタディーツアー IMAYAの活動現場



- 枯葉剤の後遺症
- ベトナム製車椅子の寄贈
- 奨学金

## 日韓6大学フォーラム



- 慶応義塾大学、大正大学、東西大学、釜山大学、釜山外国語大学との競い合い
- 「仕事」「いのち」などをテーマに討論、ディスカッション、交流
- 明日のために若者は何ができるか、何をすべきかを考える

## CIEE国際キャンプ



- ・海外からの5名の若者受入
- ・地域と若者との間の仲介
- ・次から次へと課題の3週間

## 東日本大震災ボランティア





避難所巡回、足湯・ハンドマッサージ  
がれき撤去、ひまわりを植える  
抹茶接待、学校訪問  
プレイパーク改修、子どもとの交流

## 留学生の地域派遣



- 1回以上参加が義務
- 学生チューター(1対1)
- 自主的に国際理解クラブへ
- 地域の祭り等に参加